



# 文化財保護センターだより

## 財団法人 岐阜県文化財保護センター

<http://www.smile.pref.gifu.jp/maibun>

### 三田洞本部・整理所

〒502-0003 岐阜県岐阜市三田洞東1-26-1  
Tel.058-237-8550代 Fax.058-237-8551  
e-mail.maibun@smile.pref.gifu.jp

### 飛騨出張所

〒509-4122 岐阜県吉城郡国府町名張字峠1425-1  
Tel.0577-72-4784 Fax.0577-72-4690  
e-mail.hida@smile.pref.gifu.jp

平成12年  
11月1日

第29号

### もくじ

表紙	時を越えて語りかける 歴史の証人との出会い「タイムスリップ探検隊」…………… 1	報告	岐阜県新発見考古速報レポート…………… 4・5
行事	これが探検隊の1日だ！…………… 2	トピックス	古代寺院の名称判明!!「高家寺」-寿楽寺廃寺跡-…………… 6
調査	徳山陣屋跡・中山道発掘調査…………… 3	センターだより	センター日誌・あとがき…………… 7
		センターニュース	10周年特別企画-いにしへの美濃と飛騨-…………… 8

# タイムスリップ探検隊

## 時を越えて語りかける歴史の証人との出会い



(財)岐阜県文化財保護センターが、教育普及活動の一環として行っている「タイムスリップ探検隊」も9回目を迎えました。今回は昨年に引き続き、夏、真っ盛りの8月1日に、柿田遺跡(可児市・御嵩町)において実施しました。今回も、県内の小学5・6年生と保護者のみなさんによる探検隊が遺跡の発掘体験にチャレンジしました。

# タイムスリップ探検隊

本日のメニュー  
 結団式▶発掘体験▶  
 遺物の洗い▶拓本とり  
 ▶解団式  
 (修了証授与)

今年の探検隊は、可見市と御嵩町にまたがる広大な田園地帯に位置する「柿田遺跡」で結成されました。この遺跡は、東海環状自動車道の「可見御嵩インターチェンジ」がつけられるところです。ミレニアムの発掘体験とあって県内の小学5・6年生と保護者のみなさん(30組66名)の参加がありました。



室内研修場所 広見東公民館

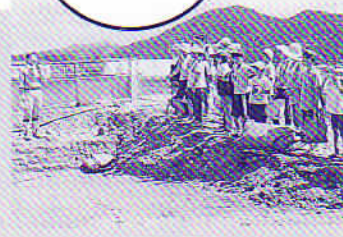
これが探検隊の一日だ!

**結団式**

探検隊員の集会で  
す! 自己紹介もあり  
ました。



発掘を始める前  
に説明をしっか  
り聞いて。



**発掘体験**

今回の発掘は、  
中世(鎌倉時代)  
でした。

さあ、発掘開始  
土器は出てく  
るかな。



できた土は、  
一輪車に乗せて  
土捨て場へ。



見つけた!!  
大きな土器  
これは、鎌倉時代  
の山茶碗という土  
器でした。

夏空の下  
ひろ〜い遺跡の  
中で。



**土器洗い**

泥まるけの土器が見違  
えるようにきれいにな  
りました。これにはみ  
んな感動でした。



**拓本とり**

墨をのせると土  
器の紋様がうか  
んできました。



**修了証授与  
(解団式)**

探検隊員の一人一人がよく  
がんばりました。みんな、いい  
顔で修了証を手に入れました。



「タイムスリッ  
プ探検隊」は、  
これからも続  
けていく予定  
です。  
みなさんの多  
数の参加をお  
待ちしていま  
す。

## 発掘調査 状況

# 発掘調査真っ盛り

当センターでは本年度、地元関係諸機関や多数の方々のご協力をいただき、県内8市町村11遺跡で発掘調査を実施しています。このうち今回は、2遺跡の概要についてお知らせします。



### 徳山陣屋跡 (揖斐郡藤橋村)

揖斐川本流と支流西谷川の合流地点左岸の段丘上、旧徳山村本郷地区の一番北の高台に遺跡はあります。旧徳山村は、縄文時代の遺跡が主ですが、ここは江戸時代の遺構が中心と思われます。



遺跡の様子

#### ■ 徳山氏の屋敷跡

調査地区背後の山に徳山城跡があり、室町時代前期は徳山氏の拠点でした。江戸時代になると、徳山氏は現在の各務原市にも領地を持ち更木に本陣屋が置かれ、旧徳山村の領地には代官屋敷が置かれることになりました。現在、調査を行っている箇所は、この代官屋敷跡です。

調査前にはし字状に石垣がありました。長年の間に何度も積み直された跡がみられましたが、底部には、各所に1.5mもある山の岩が残っていました。屋敷跡は、その石垣で盛られた上の段にあったと伝えられています。



発掘作業の様子

#### ■ 陶磁器片や古銭が出土

現在、石垣の上の部分と、石垣の周辺部の調査をしています。江戸時代のものと思われる陶磁器片や古銭等が出土し始めています。陶磁器の多くは小さな破片です。また、何に使われたか今のところ不明な大小の穴が見つかっています。

今後調査が進むにつれて、屋敷跡や周辺の建物等、本郷地区の昔の様子についてわかってくるのではないかと期待されます。

(注1) 現在の各務原市那加西市場町

### 中山道 (不破郡関ヶ原町)

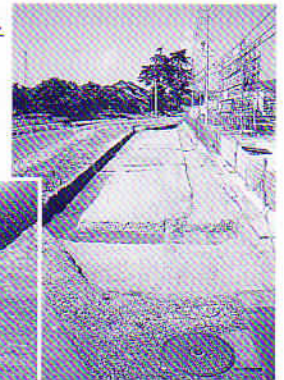
垂井町との境からわずかに西に入ったところに調査区はあります。平成9、10年度に調査した「南整理遺跡」の北側、中山道部分を調査しました。

#### ■ 今も昔も変わらぬ交通の要所

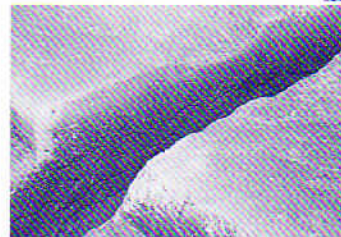
遺跡北側にはJR東海道線が、南側には国道21号線と東海道新幹線が通っています。また、遺跡より数百メートル東には、国史跡に指定されている垂井一里塚と旅人が一休みしたであろう茶屋が残っており、西側には、古くからの松並木があります。この辺りは古くから交通の要所となっています。

中山道は大名の参勤交代はもちろん、将軍の上洛、茶壺道中、朝鮮通信使、和宮に代表される姫君の輿入れ等に利用されていました。また、こうした人々の往来だけでなく、垂井宿と今須宿の間では五街道で最初に板車(大八車)の使用が認められ、物資の往来も盛んであったことがうかがえます。

遺跡の様子



補修のための砂質層



#### ■ 補修のための砂質の層を確認

道路の断面からは、昔の中山道の道路面と思われる部分の上部に二段の砂質層を検出しました。道路の上に時代を確かめられる遺物がなかったのは、はっきりいつの時代の補修なのかということは断定できません。しかし、平らな粘土質の道路面の上はかなり広い範囲で確認している砂質層は、先に述べた通行に伴って整地された跡ではないかと考えられます。

(注1) 茶壺道中……江戸幕府に届けのお茶を山城国(今の京都府南東部)宇治から江戸に運ぶ行列。

(注2) 朝鮮通信使……徳川将軍が代わるごとに、朝鮮国王が派遣した使節。

# 岐阜県新発見考古速報 2000

## 150名の参加者で盛大に開催！

— 平成12年度岐阜県発掘調査報告会 —

岐阜県では、平成11年度18市町村41か所で発掘調査が行われました。その調査結果を交流する「岐阜県新発見考古速報2000」が、7月18日大垣サイトピアセンターにおいて行われました。台風の接近にもかかわらず、約150名の参加者は報告や講演に熱心に耳を傾けていました。



大桑城跡  
大桑城下町遺跡  
後平茶臼古墳  
後平1号墳  
後平遺跡  
歴飯大塚古墳

### 後平茶臼古墳・後平1号墳・後平遺跡 (加茂郡富加町) (財)岐阜県文化財保護センター 藤田 英博 氏

本遺跡は富加町の北端に位置し、古墳2基と弥生時代末～古墳時代初頭の集落跡を確認した複数の時代にまたがる複合遺跡です。



遺跡の遠景

古墳の1基は「後平茶臼古墳」と呼ばれているものです。墳形は造り出し付き円墳で、周囲を巡る周溝の内側で測ると全長約15m、円丘部で径13.5mになります。遺体を納めた埋葬施設は円丘部のほぼ中央で見つかり、盗掘あるいはその後の損壊によってかなり当時の状況は失われていましたが、「竪穴系横口式石室」と考えられます。石室内からは

鏡・鈿具・須恵器等が出土しました。盗掘によって破損した遺物が多数を占めますが、鏡は「木心鉄板張輪鏡」と呼ばれるもので、県内2例目となる貴重な資料となりました。

円丘の外側には三日月状に周溝が巡り、埴輪片が大量に転落していました。この様子から墳丘には埴輪が樹立していた事が分かりました。出土した埴輪は「尾張型埴輪」と呼ばれるもので、窖窯で焼成されることを特徴としています。本来は尾張地方に濃密に分布する埴輪です。現状では分布の北限を示す資料として注目されます。古墳が造られた年代は、出土した須恵器や埴輪から5世紀末～6世紀初頭と考えられます。



出土した尾張型埴輪

竪穴系横口式石室は北部九州に初源が求められる石室で、横穴式石室としては県内で最も古い段階の石室として注目されます。後平茶臼古墳の被葬者はその年代に開きがありますが、「御野国半布里戸籍(702年)」にある「カモ県主」の一族に連なる有力者であったかもしれません。

今回の調査で、古墳の規模・時代・埋葬施設・副葬品が明らかとなり、より一層性格が明らかになりました。

(注1) 造り出し付き円墳…南側に四角形の高まり、祭壇(死者をとむらう祭りの場)を造りつけた円墳。

(注2) 周溝…古墳の周りを巡る溝。

(注3) 竪穴系横口式石室…北九州にはじまる石室の一形態。通常の横穴式石室とは異なり、古墳の入り口から棺をおさめた部屋(玄室)までの道(羨道)が狭くて小さい。また玄室へ一段降りる構造をもっている。

### 大桑城跡・大桑城下町遺跡 (山県郡高富町) 高富町教育委員会 山田 哲也 氏

岐阜県の戦国時代と言えば斎藤道三や織田信長が活躍した時代ですが、その少し前の時代、美濃の国では守護大名の「土岐氏」が大きな力を持っていたことをご存じでしょうか。

大桑城跡は、当時の守護が移り住んで斎藤道三と戦ったと伝えられる戦国時代の城の跡で、高富町と美山町の境の古城山(407m)に今も姿をとどめています。城の麓には城下町が存在したと伝えられており、大桑城跡と大桑城下町遺跡の二つからなるこの遺跡群は、16世紀前半代にその活動が最も盛んであったと考えられています。

城下町遺跡では過去4回の試掘調査を行いました。その結果、城下町を防御したと思われる堀の跡や、山城の麓の居住区(居館?)を囲むと思われる区画溝(堀?)が所在する事がわかりました。



試掘調査により発見された(伝)「越前掘り跡」

しかしこれまでの試掘調査からは、広い城下町遺跡のごく一部が見えているに過ぎません。遺跡全体の時代や城下町のひろがりやどのようであったのかを知るため、田んぼや畑に落ちている、土器や陶器の破片を拾い集めて遺跡のひろがりやを調べました。

その結果、古代から現代に至るまでの遺物が見つかり、この地でも人々が今に至るまで、連続と暮らしてきた事がわかりました。なかでも中世、特に16世紀前半頃のものが目立って多く、城の麓の谷いっばいにひろがるように認められた事から、伝説のように、戦国時代には大桑城の麓に「町」があった可能性が高い事がわかってきました。

(注4) 鈿具…革ひもをとめるための金具。現代のベルトのバックルと同様なもの。

(注5) 木心鉄板張輪鏡…木材を芯にして、その周囲を鉄板でおおって加工した鏡。

(注6) 窖窯…傾斜地の斜面にそってトンネル状に掘った地下式の窯。

(注7) 御野国半布里戸籍…702年(大宝2)に作成された現在残っている日本最古の戸籍。

(注8) 県主…それぞれの領地をおさめた地方の役人。

昼飯大塚古墳は平成6～11年度まで、史跡整備を目的に発掘調査を行ってきました。

調査によりこれまでの古墳のイメージをずいぶん塗り替えました。例えば、墳丘長が150mになること。これはこれまで考えられてきた大きさをさらに上回るもので、4世紀後半につくられた古墳では東海地方最大になります。



現地説明会の様子

竹藪におおわれていた表面からは、円筒埴輪が並ぶことや、朝顔形埴輪や楕円形埴輪、家形埴輪や盾形埴輪等の形象埴輪の存在も確認されました。

後円部の埴輪が並んだところからは、約400点以上の滑石で作られた勾玉やガラス玉、小型の土器や炭形土器、土製品等が出土し、当時の葬送の様子を推定することができます。

埋葬されたところは、盗掘された穴から竪穴式石室であることが初めてわかりました。石室のなかは崩れた石が散乱し、危険な状態でした。石室の横にはもう一つ木棺が粘土に包まれて見つかりました。少なくとも同じ墓壇に2つの施設が、ほぼ同時に築かれ埋められたことが

周囲の周壕も含めると全長は約180mにも及びます。墳丘の構造は前方部・後円部ともに3段に築かれ、畿内の大王墓と同じであることがわかったことも重要です。

わかります。

このように、調査によって姿をあらわした昼飯大塚古墳は、大きさや構造の上からも、様々な出土品から推定される葬送儀礼の上からも、過去の貴重な情報を現代の私達に伝えてくれました。

また、平成12年9月6日には国史跡にも指定されました。今後は、多くの皆さんに親しまれる古墳をめざし、整備を進めていく予定です。

私達はこうした古墳(遺跡)を整備しながら、まちづくりのなかに活かし、郷土の歴史を知る努力を続けていく必要があると思います。



体験学習の様子

(注1) 周壕…古墳等の周りに巡らされたほり。

(注2) 円筒埴輪…円筒形で外面に数本のとびだした帯を巡らし、間に円や三角や四角等の孔をあけた埴輪。「尾張型埴輪」はこれにあたる。

(注3) 形象埴輪…円筒埴輪以外の人物・動物・人工物をかたどった埴輪。

## 講演

「戦国の山城」と題して国立歴史民俗博物館の千田嘉博氏に講演を行っていただきました。講演は、「戦国時代なぜ高い山に城を造ったのか」について、室町時代の館から、戦国時代、江戸時代の城への変遷を対比しながら山城のもつ意味をさぐる内容でした。

- 城の調査は、文献や伝承で残る城の姿を具体的に明らかにするだけでなく、政治体制や社会の構造まで知ることができる。
- 1520～1550年代に城は平地から山に移るとい劇的な変化がおこる。それは、将軍の力が弱くなり室町幕府の政治体制がゆるいでいく中で、それぞれの地域の大名が自らの力で地域を治めていこうとする戦国時代にふさわしい、政治の新しい指向に対応するものであった。
- 山城は戦うための城ではなかった。大名は自ら山城で日常生活をおくった。政治と文化の中心を山城が一元的にはたしたといえる。
- 山城には2種類ある。どれが本丸か一見しただけでは分からない、それぞれの曲輪が完全に横並びになった「横並び型」の城と、どこが本丸かすぐ分かり、どこを守るのか非常にはっきりした「中心性、階層性」をもった城である。
- 「横並び型」から「中心性」をもった城への移行は、信長の頃からの大きな変化である。戦い方が違って来た、造り方がうまくなったというだけでなく、権力としての性格が大きく違うためである。天下統一の時代を迎え、権力のあり方が全く変わってきたからである。
- 近世城郭への道筋を決定的にしたのは、信長の安土城である。初めて山麓の城下町と山の上の城が一体化し、信長は本丸よりさらに高い天守に住んでいた。横並びの関係から誰が一番えらいのかを示す時代になっていった。ここから、江戸時代の城の基本形ができあがっていくことになる。

最後に、安土城のコンピュータグラフィックによるリアルな再現映像を見せていただき、あっという間にすぎた1時間余りでした。



# 古代寺院の名を記した土器発見

～飛騨地方で最も古い白鳳時代の寺院～



古代寺院跡

当センターでは、岐阜県基盤整備部古川建設事務所による主要地方道神岡河合線道路改良に伴い、平成10年度より吉城郡古川町太江地内において寿楽寺廃寺跡・太江遺跡の緊急発掘調査を進めてきました。今までに、7世紀後半に創建された白鳳時代の寺院跡やその周辺の古代集落跡等を発見しています。古代寺院の名を記した土器と瓦は寺院の金堂または講堂と推定される箇所の周辺から出土したもので、文字は遺物の泥などを落とす洗浄作業中に発見しました。

## ◎土器に「高家寺」の名くっきりと墨で 瓦にも「高」の文字が篋描き

須恵器の器の外側にくっきりと高家寺の文字が墨で書かれています。同じ文字が須恵器の底に書かれているものもあります。また、瓦には「高」の文字が細い棒状の工具で書かれています。おそらく「高」の下には「家寺」の文字が続くと思われませんが、その文字を記した破片は今のところ見つかりません。文字は瓦を焼く前に書かれたもので、瓦を生産した場所での納品先を記したものと考えられます。



須恵器の文字（墨で書かれた）



瓦の文字

瓦と器に書かれた文字の発見によって「寿楽寺廃寺跡」と呼んできた古代寺院は、「高家寺」であったことが明らかになりました。（寿楽寺は江戸時代に建てられ、現在この地に所在する曹洞宗の寺院名）

## ◎高家は古代の郷名—高家郷の場所がどこか明らかに・・・

「和名類聚抄」によれば、現在の古川・国府盆地を中心とする一帯は、古代には「荒城郡」と呼ばれその中に荒城・名張・深川・飽見・高家・遊部・奈部の七つの郷があったとされます。これまで高家郷が現在のどの地域に当たるのかは、はっきりしませんでした。今回の発見によって古川町太江地区を中心とする辺りが古代の高家郷であったことが明らかになりました。

## ◎達筆な書き手

須恵器に墨で書かれた文字は、筆の動きが滑らかで相当に文字を書くことに熟達した人物が書いたことが予想されます。また、瓦に書かれた文字も同様に文字に熟達した人の手によるものであることが、線の動きなどから読みとることができます。寺院だけでなく寺の造営に関わる窯や瓦を作る工房などにもかなり高度な知識を持った人たちがいたことを物語っています。

★この発見された文字資料は10周年記念特別展で展示します。

### 「高家寺」の建っていた時期

縄文、弥生、古墳／飛鳥、奈良、平安、鎌倉、南北朝／室町／戦国、江戸、明治、大正、昭和、平成



「高家寺」の建っていた時期 7世紀後半の白鳳時代に建立され、8世紀末から9世紀のはじめ頃まで造営を繰り返しながら存続したと考えられます。

(注1) 白鳳時代……日本文化史、特に美術史における時代区分。飛鳥時代と天平時代の中間。7世紀後半から8世紀初頭頃までを指す。  
 (注2) 和名類聚抄……我が国最初の分類体の漢和辞典・百科辞典で作者は源順。平安時代に醍醐天皇の皇女動子内親王の命によって作られたといわれる。現存するものは後世に写本されたもの。  
 (注3) 郡・郷……古代律令制の行政単位で国の下に郡。更にその下に郷(里)が置かれた。飛騨国では、当初荒城郡と大野郡が置かれ後に益田郡が置かれたと考えられている。



- 6月 15 各務原市各務小学校総合学習へ講師派遣  
 19 岐阜市岩野田北小学校三田洞整理所見学（6年74名）  
 23 可児市教育懇話会、柿田遺跡視察  
 27 愛知県埋蔵文化財センター赤塚氏・石黒氏、三田洞整理所来所

- 7月 3 柿田遺跡、金ヶ崎古墳群発掘現場作業開始  
 4 富田清友遺跡、野笹遺跡発掘現場作業開始  
 記者発表（柿田遺跡出土の木製祭祀具）  
 8 岐阜県発掘調査報告会「岐阜県新発見考古速報2000」  
 （大垣市スイトピアセンター 150名）  
 9 国府町商工会「マイタウンアドベンチャーツアー」  
 飛騨出張所見学（40名）  
 12 垂井町日守遺跡試掘調査  
 13 各務原市中央中学校、柿田遺跡にて発掘体験学習  
 （～14日 45名）  
 14 産業医伊奈波氏、飛騨発掘現場、整理所指導  
 16 高山市大八社会教育協議会、冬頭城跡見学に講師派遣  
 17 中山道発掘現場作業開始  
 19 埼玉県埋蔵文化財調査事業団細田氏他4名、資料調査で来所  
 26 長野県木曾広域連合理蔵文化財調査係百瀬氏他3名、資料調査  
 で来所（27日 飛騨出張所）  
 27 岐阜県立岐山高等学校郷土研究部、三田洞整理所見学  
 31 三重大名誉教授八賀氏、寿楽寺廃寺跡指導  
 博物館実習（三田洞整理所）

昨年度あたりから、体験学習や研修の一端としてセンターを利用していただく団体が増えてきました。小学校高学年から高校生の皆さんや学校の先生方を中心に、夏休みの時期に多くなりました。「センター日誌」に掲載した以外にも、職場体験学習で仕事を体験していただいた中学生の皆さんが何人かいらっしゃいます。また、写真や出土品を持って出前授業にうかがったこともありました。

発掘現場で、整理所で、それぞれ「本物」とおして学んでいただいたことが、埋蔵文化財に対する関心の深まりや広がりにつながっていくかと思うと、うれしくなります。

今後ともセンターでは、遺跡や出土品の活用を一層図っていきたく考えています。お気軽にお問い合わせください。

【各務原中央中発掘体験学習】

【博物館実習】

発掘体験をする生徒の皆さん



遺物洗いをする研修生の皆さん

石器作りの実演を見入る児童の皆さん



【岩野田北小見学】

遺物の話を聞く先生方

遺跡の説明に耳を傾ける児童の皆さん



【岐阜市小社研見学】

整理所内を見学する先生方

- 8月 1 タイムスリップ探検隊  
 （柿田遺跡・可児市広見東公民館（30組 66名）  
 岐阜市小学校社会科研究会、センター見学（51名）  
 岐阜大助教授早川氏他、飛騨出張所来所  
 4 新潟県埋蔵文化財調査事業団高橋氏他1名、センター視察  
 7 尾元遺跡発掘現場作業開始  
 10 南飛騨保養地関連萩原町四美地区試掘調査（～11日）  
 21 産業医伊奈波氏、野笹遺跡、富田清友遺跡指導  
 24 徳山陣屋跡発掘現場作業開始  
 25 大野郡中学校社会科研究部会、飛騨出張所見学  
 28 御嵩町上恵土城跡周辺地区試掘確認調査（～30日）

- 9月 28 愛知県埋蔵文化財センター調査課長都築氏他来所

## あとなぎ

ひときわ暑かったことしの夏でしたが、報告会・タイムスリップ等の行事には吹き出す汗をものもしない熱心な姿がうかがえました。今ではなつかしい思い出です。

さて、秋も深まってきますと「実りの秋」のことがあのように、成果が始めます。日ごろの努力の結晶ともいえるその成果は、現地説明会等でお伝えしているところです。近年は参加者の増加につれて、問い合わせの電話も増え、埋蔵文化財への関心の高まりをひしひしと感じています。

センターは本年度10年目を迎え特別企画展を開催しますが、これを大きな節目ととらえ、さらなる前進を期しております。

## 特別企画

## いにしへの美濃と飛騨

～(財)岐阜県文化財保護センター設立10年のあゆみ～

平成12年12月9日(土)～平成13年1月14日(日)

岐阜県博物館 人文展示室Ⅱ



(財)岐阜県文化財保護センターは、今年で設立10年を迎えました。これまで県内各地で100ヶ所を越える遺跡の発掘調査を行い、埋蔵文化財発掘調査報告書は70集を越えようとしています。そこで、10年間のあゆみとして、各時代の代表的な遺跡や出土遺物を紹介する「特別企画 いにしへの美濃と飛騨 ～(財)岐阜県文化財保護センター設立10年のあゆみ～」を開催いたします。これまでのセンター諸事業に対する県民皆様の温かいご理解・ご協力に感謝申し上げますとともに、是非ご覧下さいませようご案内申し上げます。

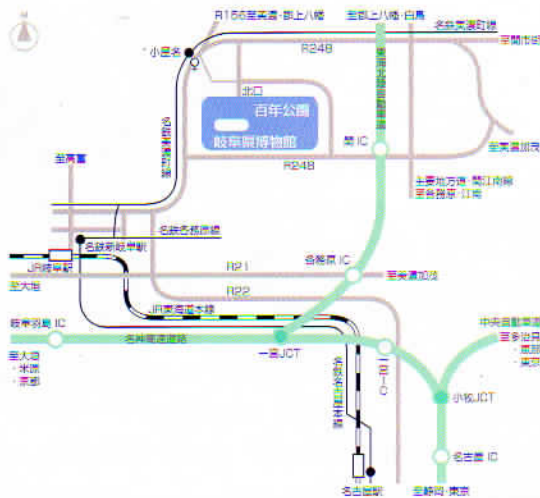
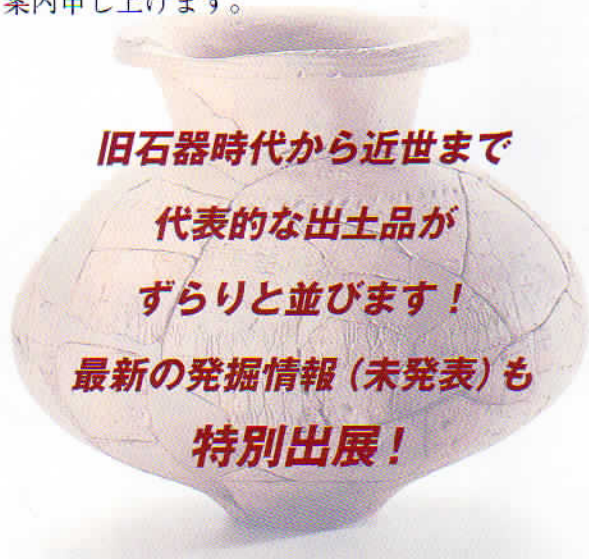
## 記念講演会 ハイビジョンホール 13:30～

- 第1回** 平成12年12月10日(日)  
奈良大学教授 泉 拓良氏  
演題「縄文時代の山と海の暮らし」
- 第2回** 平成13年1月14日(日)  
三重大学名誉教授 八賀 晋氏  
演題「センター設立10年に寄せて」

## 旧石器時代から近世まで

代表的な出土品が  
ずらりと並びます!

最新の発掘情報(未発表)も  
特別出展!



主催 (財)岐阜県文化財保護センター  
共催 岐阜県教育委員会 岐阜県博物館  
後援 文化庁 -文化財保護法50年記念-

開館時間 9:30～16:30  
休館日 毎週月曜日(祝日の場合は、翌日)  
12/28～1/3  
入館料 一般600円 大学生300円  
高校生200円 小中生150円  
※20名以上は団体料金になります。